

前進する幼・保無償化と待機児童対策

◆昨年6月から幼稚園第二子は無償化

同じく保育園(認定子ども園、保育園)の第二子無償化は今年の4月から行う予定。市独自で行う第一子の無償化は、国の動向を見ながら2019(H31)年以後の実施を検討しています。無償化は国の政策であっても、予算の3分の2を鎌倉市が負担するわけで、国の基準を超えて支援をしようとする市の施策を応援したいと思います。幼・保第一、二子以降全員の無償化には約13億円が必要。さらに無認可保育施設や、あおぞら自主保育等は今後の検討課題ですが、全ての子どもが等しく支援を受けられるよう、努力しています。

◆待機児童対策は幼稚園の延長保育拡充を

延長保育は現在23園中19園で行われています。課題は人材と財源の確保。現状は、幼稚園の努力が進められていますが、早朝から夜間まで長時間にわたる開園が必要です。補助金の充実など幼稚園への支援を要望しています。

◆お母さん達の声を届けました

- 公園の整備、パトロールを強化し、遊具をもっと増やせないか。
- 子どもの健診会場、冷たい床にゴザを敷いて、赤ちゃんが長時間待つのを解決して欲しい。
- 「母子手帳」と「すくすく手帳」の2冊の使い分けが難しい。スマートフォンやアプリの活用も含めて検討して欲しい。

老人クラブが毎月公園清掃

材木座の老人クラブ上河原ひるがお会は、毎月第2火曜日に大掛かりな公園清掃を行っています。公園管理に協働できないでしょうか。安全性も高まります。

ブログ「いやさか通信」から

第16回鎌倉全国俳句大会



記念講演は「俳句甲子園」の立ち上げに尽力された花井いつきさん。演題は「百年俳句計画」。小・中学生を育て、俳句の未来を育てよう、と力強く話されました(11/26)。

熊本地震に学ぶ特別講演



大西熊本市長の地震体験講演会が開かれまして。4/16に発生した熊本地震、まだ1万人が仮設暮らし。「人の助け、人の力」がつくづく有り難いと語られました(11/19)。

浄明寺町内会の防災訓練



今回は炊き出し訓練。あえて役割を決めず、実際の経験が目的です。10キロのお米を大釜と小釜に分けてなんとか炊き上げ、豚汁とともに100人分を作りました(11/11)。

山梨県の小学英语を視察



昭和町の押原小学校。英語教育を通じて、コミュニケーション能力を高めるのが目的。生徒たちは床に座ったり立ったり、体を動かしながら元気な授業でした(10/27)。

磐田スポーツ部活を視察



磐田市の公立中の部活入部率は94%と活発。活動の機会を充実させ、学校部活動の枠を超えて企業、大学、地域でスポーツ連携を促進する、地域クラブ事業です(10/26)。

台風21号が残した傷跡



最近では毎年のように来る台風。21号は材木座、坂の下で浜小屋などに大きな被害が発生。予定していた「三世代交流事業」も中止。船揚場の設置が急がれます(10/25)。

前川あやこのホームページからブログ「いやさか通信」をご覧ください。
<http://www.maekawa-ayako.net>

共育のまち、鎌倉をつくろう



昨年の11月20日、鎌倉市役所で「総合訓練」が行われました。市役所がある地元御成町を日々守ってくださっている第29消防分団による放水訓練。議会棟2階屋上までの放水と、鎌倉消防署の屈折式はしご車による上からの放水。また横浜消防の救助ヘリコプターによる市庁舎屋上からの避難者救出など、目を見はるような手際の良い訓練でした(2017,11,26)。



前川あやこ

無所属 鎌倉市議会議員

2005年初当選 4期目 鎌倉みらい代表

議会運営委員会委員長

教育・こどもみらい常任委員

政策法務研究会メンバー

レポート

No.55

2018,01発行

2017年12月議会からのご報告

- 1 前進する幼・保無償化と待機児童対策
- 2 健康・福祉のまち、文化のまちづくりを
- 3 屋外広告物の適正化と鎌倉漁港進捗
- 4 無電柱化、被災者施設、市庁舎移転

健康・福祉のまち、文化のまちづくりを

◆健康と要介護の間にフレイル予防

健康と要介護の間、その期間にご高齢者がお互いの健康を継続的にチェックするのがフレイル予防。要介護に進まないための予防です。みらいふる鎌倉の皆さんのように元気な高齢者が沢山いる鎌倉、市民フレイルサポーターを養成できないでしょうか。

◆障がい者雇用2,000人を目指す市長公約

地元企業の協力や農業・福祉従業者の連携などで、雇用2,000人を目指すのは私も大賛成。さらに9月議会で提案したワークステーション設置は、8人のスタッフでこの4月から開設される予定となりました。

◆鎌倉にふさわしいエコ・ミュージアム

一つの地域全体をミュージアムと考え、文化圏としての発展を目指すこの方法。多数の点在する文化財を持つ鎌倉ならではの地域振興でもあります。

◆中心となる(仮称)鎌倉博物館構想

昨年5月に開設した鎌倉歴史文化交流館と、鎌倉国宝館の2館を(仮称)鎌倉博物館とする構想の検討が、両館長のもとでこれから進められます。これは、エコ・ミュージアムの中心を担うことになる大切な考え方です。

◆俳句の世界無形文化遺産登録を

鎌倉はゆかりの歌人・俳人の多いまち。毎年鎌倉全国俳句大会も開催されています。小中学生で俳句を詠む生徒も多く、これほど鎌倉にふさわしい無形文化はありません。ぜひ登録に協力してゆきたいと思います。



いきいき健康マーじゃん

主催はみらいふる鎌倉、介護予防の輪をひろげる活動で8回目。「飲まない、吸わない、賭けない」がテーマ。最近では「生きがいづくり、健康づくり、仲間づくり」も掲げ、多くの応募から100人が選ばれて参加しました(11/12)。

屋外広告物の適正化と鎌倉漁港進捗

◆「屋外広告物条例」の早期制定を

屋外広告物の適正化については、長い間議論されてきましたが、いまだ制定されていません。小町通りをはじめ、各商店街ではこの条例がないために、店舗広告物への規制ができず苦慮しています。市では鎌倉地域を特別地域に指定した上で、デザインコードなど関係機関との調整を図る、としています。

歴史・文化の落ち着いたまち並をつくるためにも、欠くことのできない条例です。早期制定を目指して努力したいと思います。

◆漁業支援、市長のトップセールスを望む

鎌倉漁港(船揚場)整備については、市長もその取り組みを表明しています。昨年私も県水産課に行きましたが、同課との交流が再起動しつつあります。県の協力を得て、国の水産庁へ船揚場整備に関する計画、提案を提出できる環境になってきました。さらなる行政の努力を期待します。台風被害も増える中、安全な漁業、災害時の備えとしても必要です。



口腔保健センターオープン

口腔ケアは健康長寿の基。人々の関心が高まる中、台在宅福祉サービスセンターの1階に開所しました。休日急患診療、障がい者歯科診療が行われ、在宅訪問歯科診療を2020年に実施予定です(11/2)。

11月22日、議員・事務局研修会開催

議員の政策立案及び政策提言能力の向上、市政の課題に関する専門知識の習得を目指す研修会。今回の講師は日本大学危機管理学部の鈴木秀洋准教授。「地域でこどもを育てる ― 公の支援・コミュニティの役割は ―」と題して、こどもを中心とした支援、支援をつなぐ、ということで多岐にわたり、災害時の支援など勉強になりました(11/22)。

無電柱化、被災者施設、市庁舎移転

◆防災、景観、交通。無電柱化を早急に

鎌倉市内で電線の地中化が実施されているのは、八幡前通り、小町通りだけ。東日本大震災の際、頭上で揺れる電線を見て恐怖を覚えた経験があります。鎌倉市は「無電柱化を推進する市区町村長の会」のうちの一市です。私は議長時代、この会の委員として、国の国土交通委員会へ意見書提出活動を行いました。鎌倉市ではまず推進条例を制定する必要がありますが、市の一層の努力を要望します。

◆妊産婦、乳児の避難所・救護所確保を

鎌倉市では災害発生時の被災者収容施設として、市立小中学校25校を指定しています。段ボールベッド等も配置されるようになりましたが、被災弱者の中でも妊産婦、乳児への対応がもっと必要です。備蓄品の内容を見直し、特別な部屋をつくる、あるいは別施設を用意するなど、妊産婦、乳児のストレスを減らす対策を求めました。

◆市庁舎移転は丁寧な説明の中で

市役所移転については、特に鎌倉地区に住む方々にとって最大の関心事です。鎌倉市発展のためのゾーニングの一環として、深沢への移転が取り沙汰されていますが、まず各地区住民への丁寧な説明と意見交換が必要です。

遅れている大町、二階堂地区のミニバス

鎌倉市内の交通不便地域は6カ所ありましたが、ミニバスにより4カ所が解消。大町、二階堂地区が遅れています。高齢化がさらに進む5年、10年後を考えての取り組みが必要。

鎌倉駅東口横断歩道に安全誘導員を!!

次々と、あるいはパラパラと渡る歩行者によって、路線バスが構内から出られない光景は良く見られます。ぜひ誘導員を配置していただきたい。スムーズな交通と安全のために。